

令和4年度

試験名:

【 医 学 群 看 護 学 類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文(1)	<p>出題意図：新聞の記事を読んで、その内容を的確に捉え、これまでの自らの知識や経験と照らし合わせて、出題者の意図を考え、自らの意見を含めて文章化することができるか、すなわち、読解力、論理的な思考力、表現力を見る。</p> <p>解答例</p> <p>問1 「地産地消型給食モデル」が貧困の悪循環から抜け出すことにつながるメカニズムについて具体的に説明しなさい。</p> <p>解答例：</p> <p>地産地消とは、ある地域で生産された農林水産物を、その地域内で消費することである。そして、それを学校給食で行っていくことが「地産地消型給食モデル」である。このモデルがガンビアで効果的に展開されれば、貧困の悪循環から抜け出すことができる。そのメカニズムを以下に述べる。まず地消の部分では、給食ではその域で収穫された農林水産物を毎日使用するため、その地域の事業が活性化される。これにより事業者は定期的な利益が得られ、その地域での更なる雇用が促進される。雇用が促進されれば、働く場所と安定した収入が得られる。家族の収入が増えれば、子どもたちの家庭での生活環境は整えられ、家庭での食生活も充実して貧困から脱することができる。また地消については、子どもたちは学校給食においてその地域で収穫された食物から栄養のある食事を取ることが出来る。地域で収穫された食物は輸入された食物と比較して安価で安全であるため、学校給食は低予算でも展開でき、継続していくことが可能である。さらに、子どもたちは、自らが生産者となること、販売して利益を得ること、消費すること、栄養のある食事を作ること、食べることなどを給食から学ぶことになる。このように、「地産地消型給食モデル」では、地域と家族に経済的効果をもたらし、子どもたちに十分な栄養と教育を与え、将来の貧困を減らすことに繋がる。</p> <p>問2 日本の子どもの食生活の問題と、それを解決するための学校給食の役割について、あなたの考えを述べなさい。</p> <p>解答例：</p> <p>私は日本の子どもの食生活の問題として、「不必要なダイエットのために必要な栄養やエネルギーが取れていない子どもがいる」ことを取り上げる。現在、若い女性の痩せ嗜好が問題になっている。メディアに登場するスタイルの良いタレントに憧れ、普通の体型であっても痩せたいと思い、不必要なダイエットをして</p>

いる中学生や高校生は少なくない。私自身も中学2年生の頃、学校でダイエットが流行し、給食を残すことが多かった。不必要なダイエットをすると病気になりやすく、また勉強にも集中できなくなるが、中学生の頃には健康に関する意識は低かったと思う。

日本の学校給食の意義には、子どもの成長・発達を促進すること、栄養や健康に対する関心や意識を高めること、子どもの心の発達を促進することなどがある。不必要なダイエットをする子どもを少なくするには、学校給食を通じて栄養や健康に関する関心や意識を高める教育が必要である。それは、知識を与えるだけでは無く、自分で管理していくという意識を育てることである。しかし、基本的に給食は、決められたメニューを食べるという受け身の形式である。自分で健康を管理するという関心や意識を高めるには、セレクト給食のように自分で食べるものを自分で選択させることが有効だと考える。またデジタル社会においては、給食のメニューと栄養素を照らし合わせて1日の摂取量を自己管理できるようなアプリを使うことも有効である。一方、栄養士とともに実際のメニューを作成するような体験型学習も有効であると考えられる。さらには、昼間の学校給食だけでは関心や意識を高めることは難しいため、家庭での食育を推進するための保護者への教育も必要である。

小論文(2)

本文から読み取った、わが国の障害のある人に関する問題を適切に説明する能力をみる。

解答例

問1.

問題点	説明
偏見	固定観念に基づいた障害についての見解
性別	障害のある女性は、障害そのものに加えて性差別も受けている
弱い立場	低所得、無職、低学歴の人は障害のリスクが高い。貧困家庭の子どもや少数民族グループに属する児童では、そうでない児童よりも有意に障害のリスクが高い
資金不足	高所得国では障害のある人々の20%-40%は、日常生活での介助に関するニーズが一般に満たされていない。低所得国や中間所得諸国の多くでは、政府は十分なサービスを提供できず、サービス業者は利用不可能か高額すぎて手が届かない。
アクセシビリティ	多くの建築環境、輸送機関、情報が、万人にとってアクセスしやすいものになっていない。輸送機関へのアクセス不足は、障害のある人の職探しの意欲を削ぎ、医療へのアクセスを妨げたりする一般的な原因である。
相談関与の欠如	障害のある多くの人々は、自分の生活に直接かかわる物事に関わる意思決定から除外されている。
サービスや介助の欠如	障害のある人は医療、リハビリテーション、支援サービスや介助の欠如に脆弱である
サービスの調整不足、スタッフ不足、スタッフの能力不測	サービスの調整不足、スタッフ不足、スタッフの能力不測が障害のある人を対象としたサービスの品質、アクセスのしやすさ、妥当性に影響を及ぼす恐れがある。
弱い立場(国の経済状態、個人の経済状態、学歴、雇用)	経済状況として高所得諸国よりも低所得諸国において障害の存在比率が高い。低所得の人や無職の人や学歴の低い人は障害のリスクが高い。

問2

出題意図

本文の障害のある人に関する問題のうち求められている内容を読み取り、これに関する自分の考えについて適切に説明する能力をみる。

解答例

- ・ 具体例: 要介護高齢者(障害者)の退院後の療養場所について、高齢者本人の意思を確認せずに家族の意思を優先する場合がある。例え

ば高齢者が自宅退院を望む場合であっても、家族が共働きを理由に高齢者の施設入所を決めてしまうことがある。家族が経済的事情から働かざるを得ず、日中の介護力が不足する場合に起こりやすい。

- ・ 考え:介護保険制度の利用と、仕事で不在となる家族の見守り機能について補完する通所介護や訪問介護サービスの利用を提案することで、在宅療養を望む高齢者と家族の選択の幅が広がり、高齢者の在宅療養の希望や意思を尊重出来る。高齢者を交えた話し合いが行われない理由として、家族が介護の責務を果たせない申し訳ない気持ちや後ろめたさから話し合いを避けることと、高齢者側も家族に遠慮して、本音を言わないことも考えられる。看護師など第三者が話し合いに加わることで、家族と高齢者がお互いの気持ちや本音を言い合える場面を設けることが可能である。

### 問3

#### 出題意図

インクルーシブに関する知識と推進における課題について、自分の考えを適切に説明する能力をみる。

#### 解答例

インクルーシブな社会の実現については世界の国々がそれぞれ持っている資源や国の経済状況なども異なるものの、解決すべき課題については共通するものが多い。以下、共通する課題とその解決策について考えを述べる。

共生社会の大切なファウンデーションの一つとして、生活の安定、雇用機会の創出をはかり、貧困からの脱出を促す取り組みの必要性が挙げられる。その理由として、障害があるから就業することができず失業し貧困に陥ってしまうことや、障害を持つ人々を雇用する場が少ないことがある。教育のレベルが低くなると障害を負っている人々の割合が増えてしまうことも示されている。このような状況を改善する具体的な例として、地域レベルではNGOなどの組織がイニシアティブをとり、地域に根差した特産品や工芸品を作り、販売することで収益を上げるような取り組みを行い、障害者の社会参加、技術の獲得、経済的な自立を促している。障害の程度や各人の能力や機能にマッチした労働の場をつくり、自治体や国の支援を得ながら、障害者の自立を促すことが重要ではないかと考える。

そのほか、女性であることのみにより、社会的弱者に追い込まれることがある。本文にも述べられているように、文化や宗教、古くから伝わる習慣により、女性は教育の機会を奪われている現状がある。ほかにも、女性の生理的な現象である月経などで社会参加ができなくなったり、若年で結婚させられる女性が低所得、中所得国に存在している。また高所得国では高齢女性が貧困に陥っている状況がみられる。これらの状況を打開するために、具体的な取り組みとして、女性に教

育や技術を得させて、マイクロファイナンスなど、小規模の経済的事業支援をすることで生活基盤の構築を図るなどの取り組みも南アジアで行われている。さらに、高齢女性の雇用の創出についてはシルバー人材センター（日本）や、マクドナルド（米国）での雇用などの例にもあるように高齢女性の社会参加を促しながら、収入を得る道を開くということも試みられている。

インクルーシブな社会を構築するには、前述したような地域、民間の組織での取り組みだけでなく、自治体や国レベルでの政策も含め総合的な取り組みが必要である。障害の有無にかかわらず、暮らしやすい社会構築のためにインフラ等の整備、ポリシーの改革、インクルーシブな社会構築への意識変革、啓発活動など様々なレベルでの取り組みを行ってゆくことが不可欠である。